

## 1-6 北海道地方の地殻変動

### Crustal Movements in the Hokkaido District

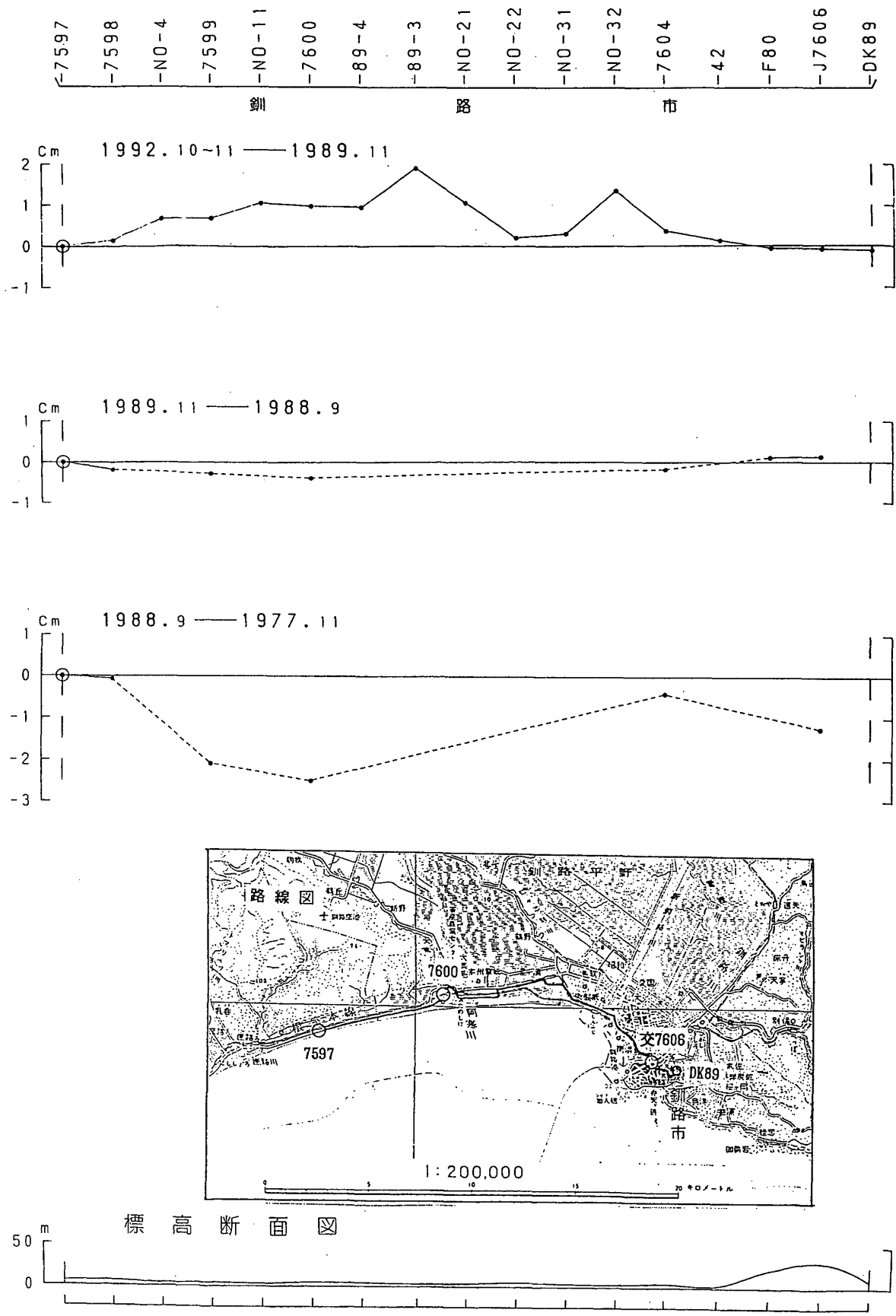
国土地理院  
Geographical Survey Institute

第1図は、北海道釧路支庁及び釧路市が地盤沈下調査のため実施した水準測量結果である。釧路市の西方で2年間に1～2cmの隆起がみられる。この地域は、1988年以前は地盤沈下が激しかった地域であり、同年以降回復しつつあるものと思われる。第2図は、北海道太平洋岸の各験潮場の月平均潮位差である。1982年の浦河沖地震の前から浦河が隆起している。1990年頃に再び浦河の隆起が認められ、この時期に行われた水準測量の結果とも符合する。

第3～7図は、北海道太平洋沿岸地方における精密測地網測量一次基準点測量2回目の結果である。第3図は、一次網2回目と1回目の比較による約10年間の水平歪分布である。全般的に歪は小さく、特定の傾向はみられない。第4図は、明治の三角測量との比較による水平歪分布である。夕張付近の大きな歪は、炭田における採炭の影響である。樽前山付近の大きな歪は、樽前山の火山活動によるものである。第5図は、根釧地方の最近10年間の水平歪である。大きな歪ではないが、北西-南東方向の圧縮歪が見られる。次の海溝型地震の発生に向けての歪の蓄積が始まっていると考えられる。第6図は、同地域の明治以来の水平歪である。北北西-南南東方向の圧縮歪が卓越している。第7図は、第5、6図の地域の三角網を編成しなおして、最近10年間の広域の水平歪の分布を示したものである。上記の北北西-南南東方向の圧縮歪は、釧路付近より西方へは及んでいないようである。

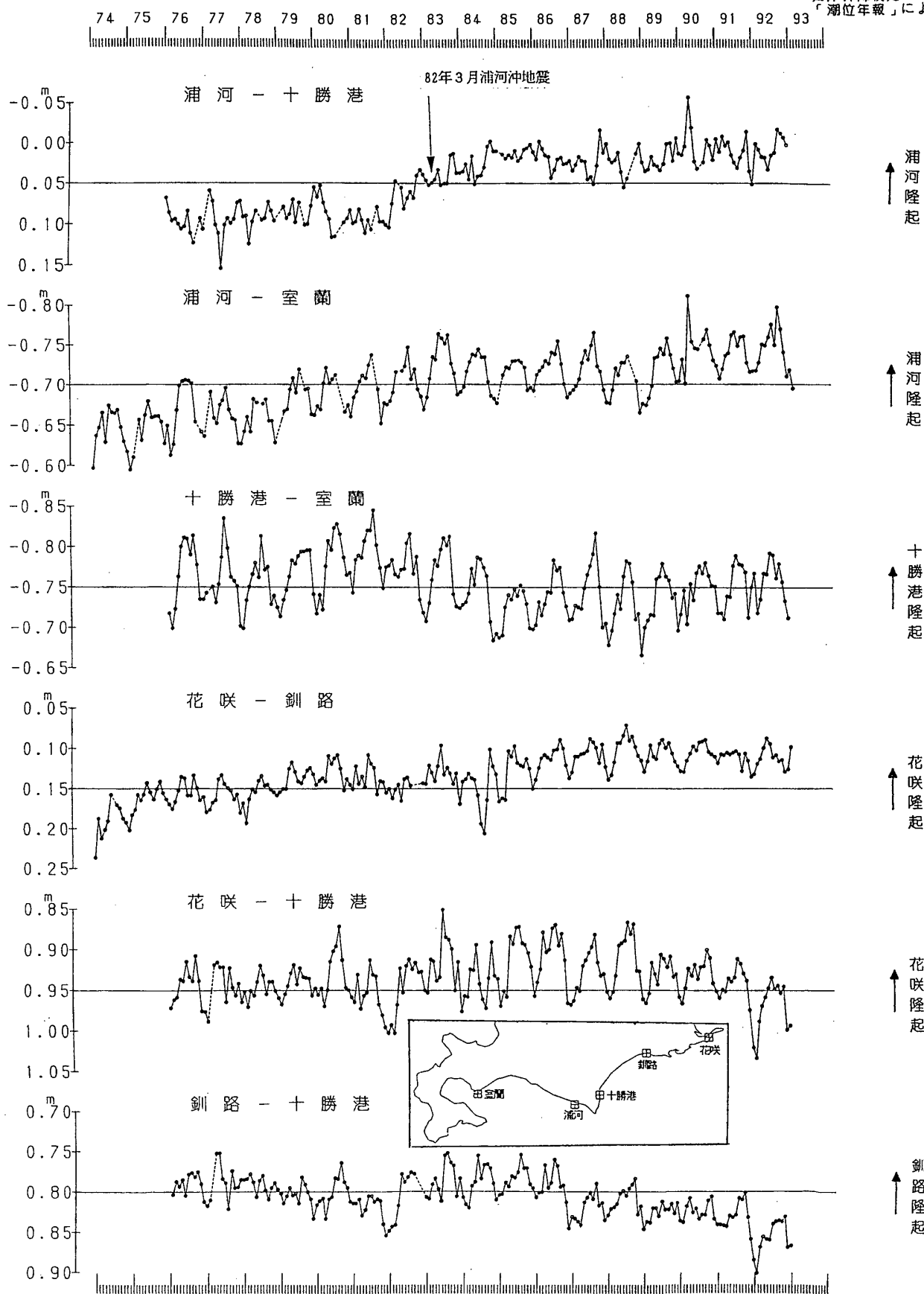
#### 参 考 文 献

- 1) 国土地理院：北海道地方の水平歪，連絡会報，32（1984），16-21.
- 2) 国土地理院：北海道地方の水平歪，連絡会報，35（1987），8-11.
- 3) 国土地理院：北海道地方の上下変動，連絡会報，37（1988），8-21.
- 4) 国土地理院：北海道の地殻変動，連絡会報，41（1989），23-24.
- 5) 国土地理院：北海道地方の上下変動，連絡会報，47（1992），12-17.
- 6) 国土地理院：北海道地方の地殻変動，連絡会報，48（1992），22-27.
- 7) 国土地理院：北海道地方の上下変動，連絡会報，49（1993），15-17.



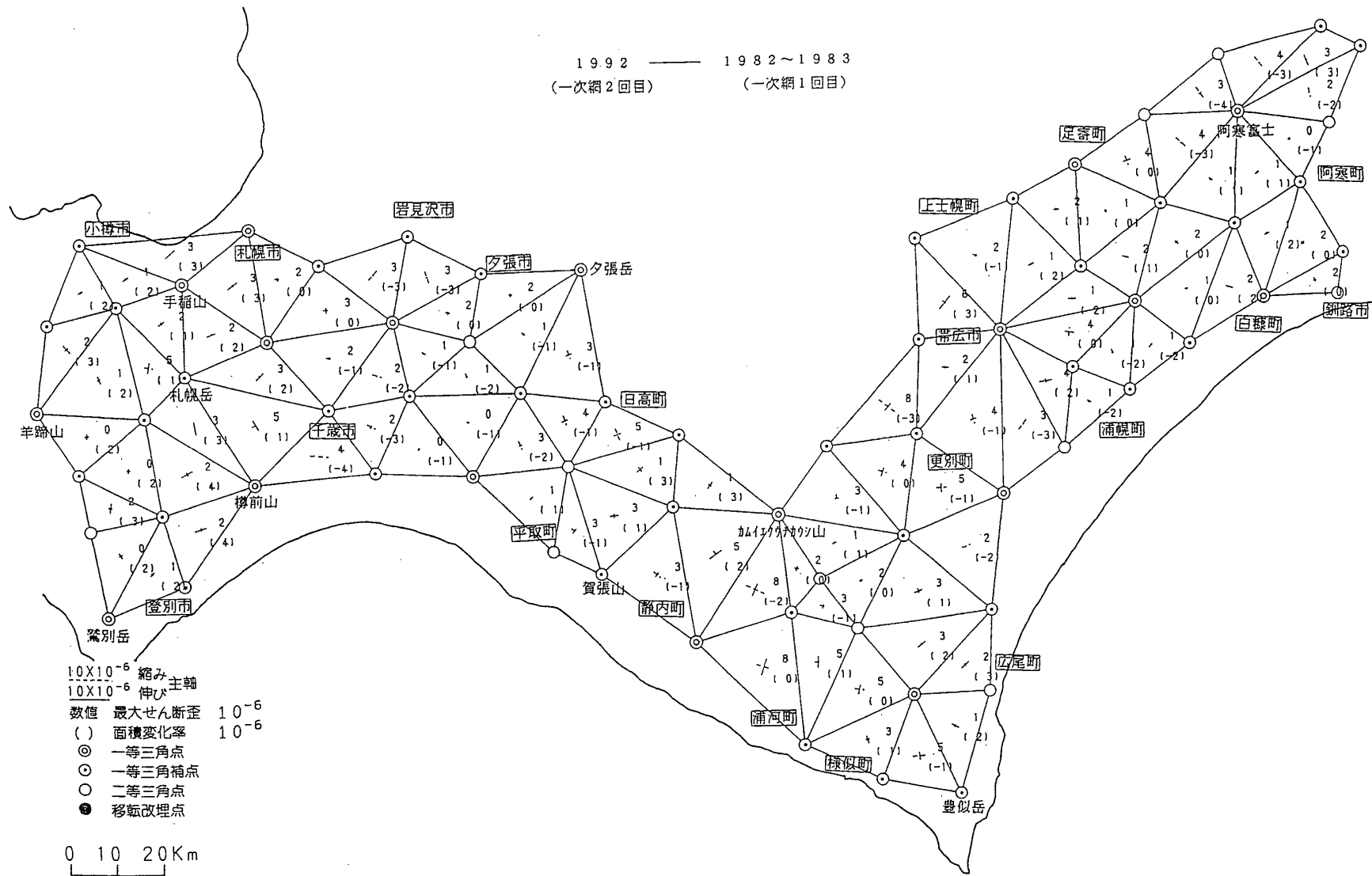
第1図 釧路地方の上下変動

Fig.1 Level changes along the coast near Kushiro.



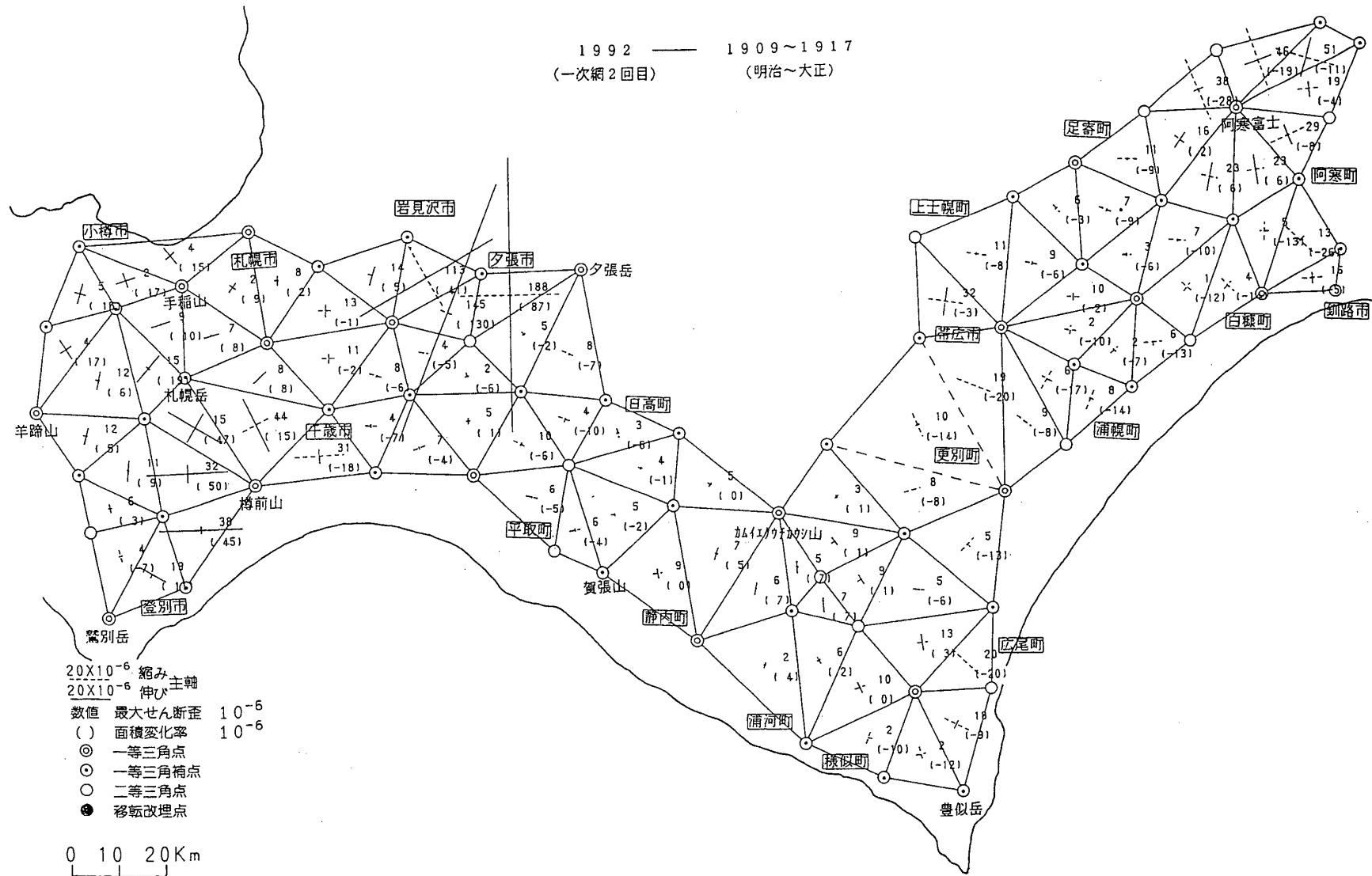
第2図 浦河，十勝港，室蘭，花咲，釧路各験潮場間の月平均潮位差

Fig.2 Differences in monthly sea level changes between the Urakawa, Tokachi-ko, Muroran, Hanasaki and Kushiro tide stations.



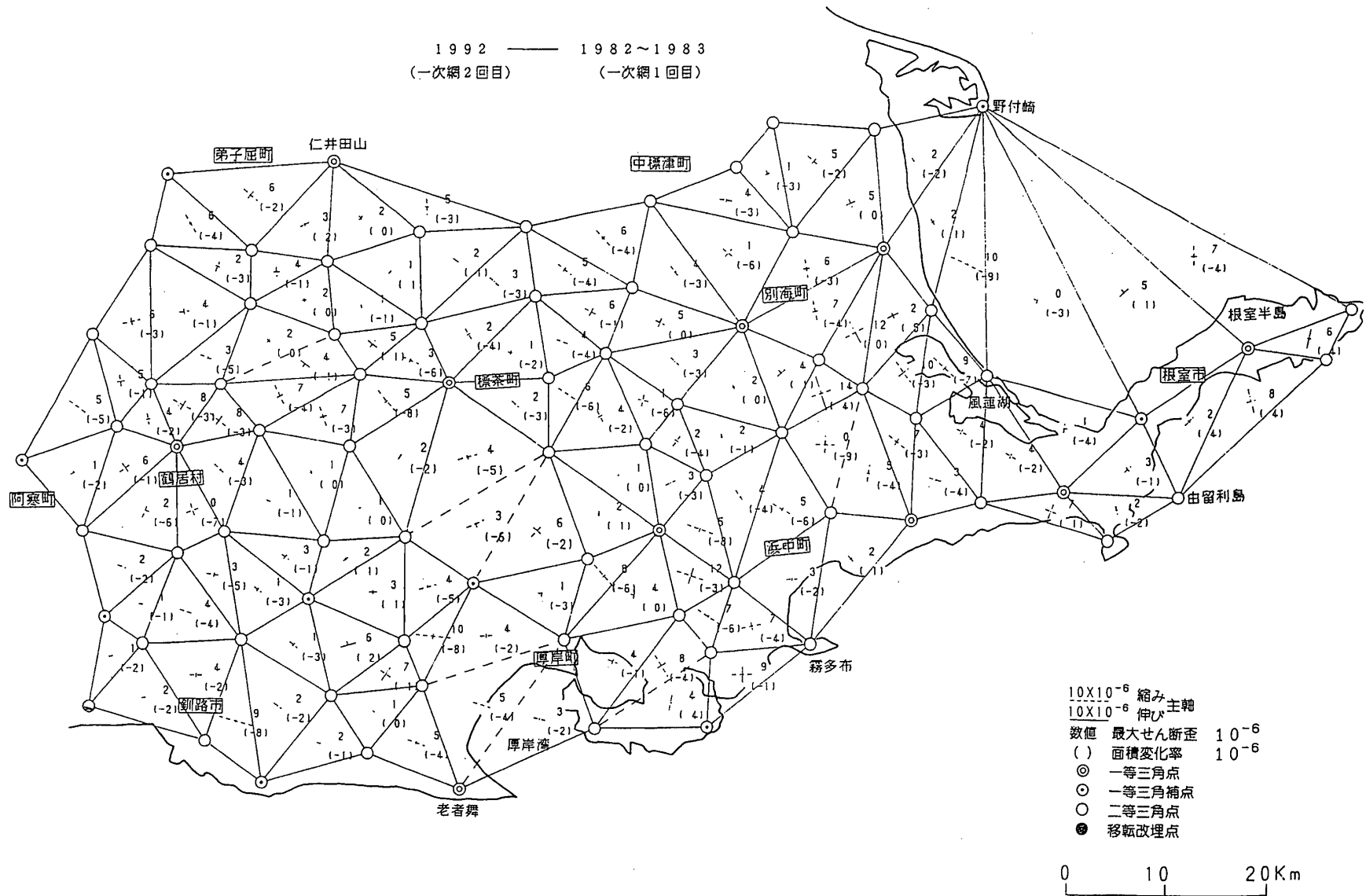
第3図 北海道太平洋沿岸地方の水平歪 (1992-1982~1983)

Fig.3 Horizontal strains in the Pacific coastal region of Hokkaido (1992-1982~1983).



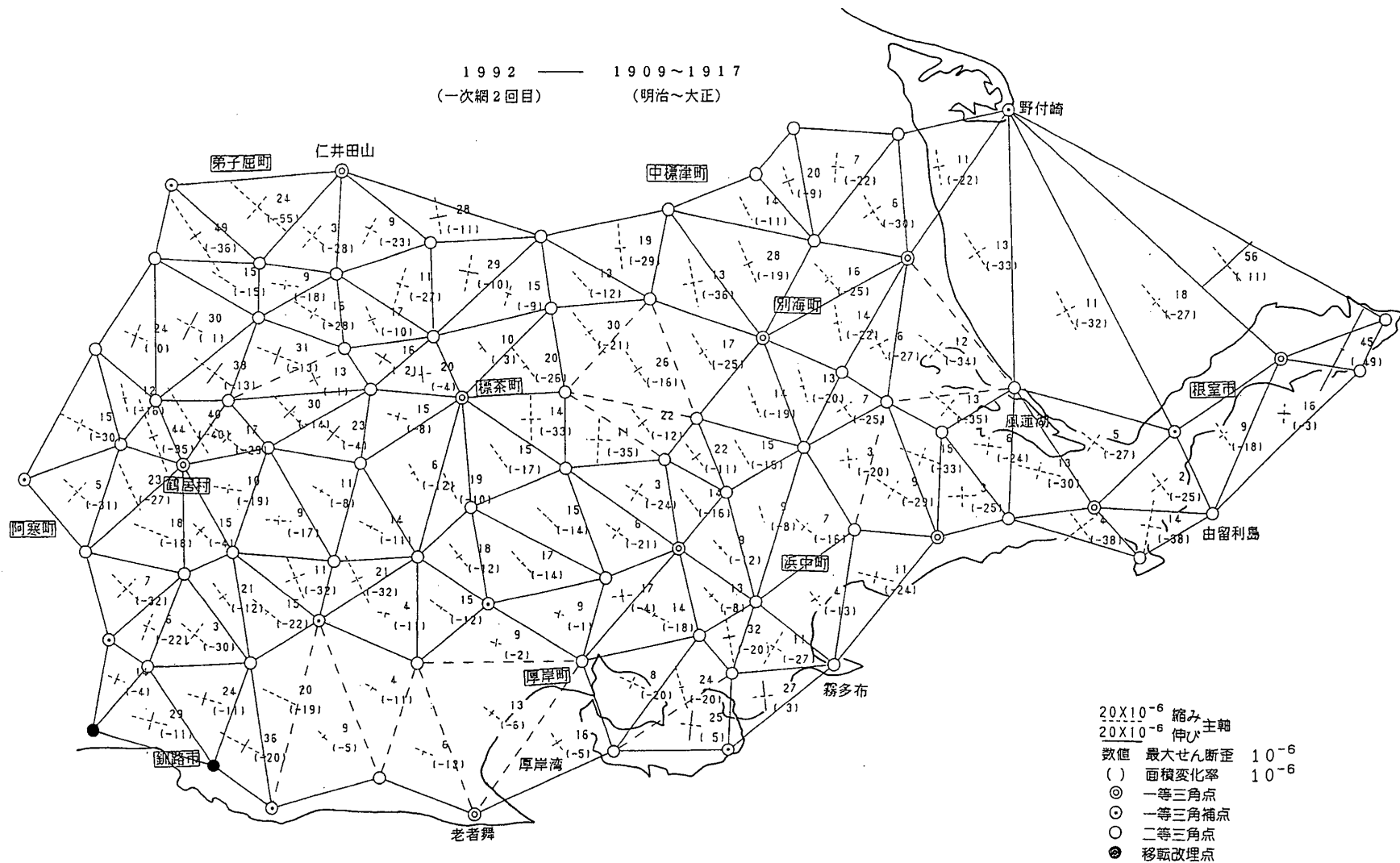
第4図 北海道太平洋沿岸地方の水平歪 (1992-1909~1917)

Fig.4 Horizontal strains in the Pacific coastal region of Hokkaido (1992-1909~1917).



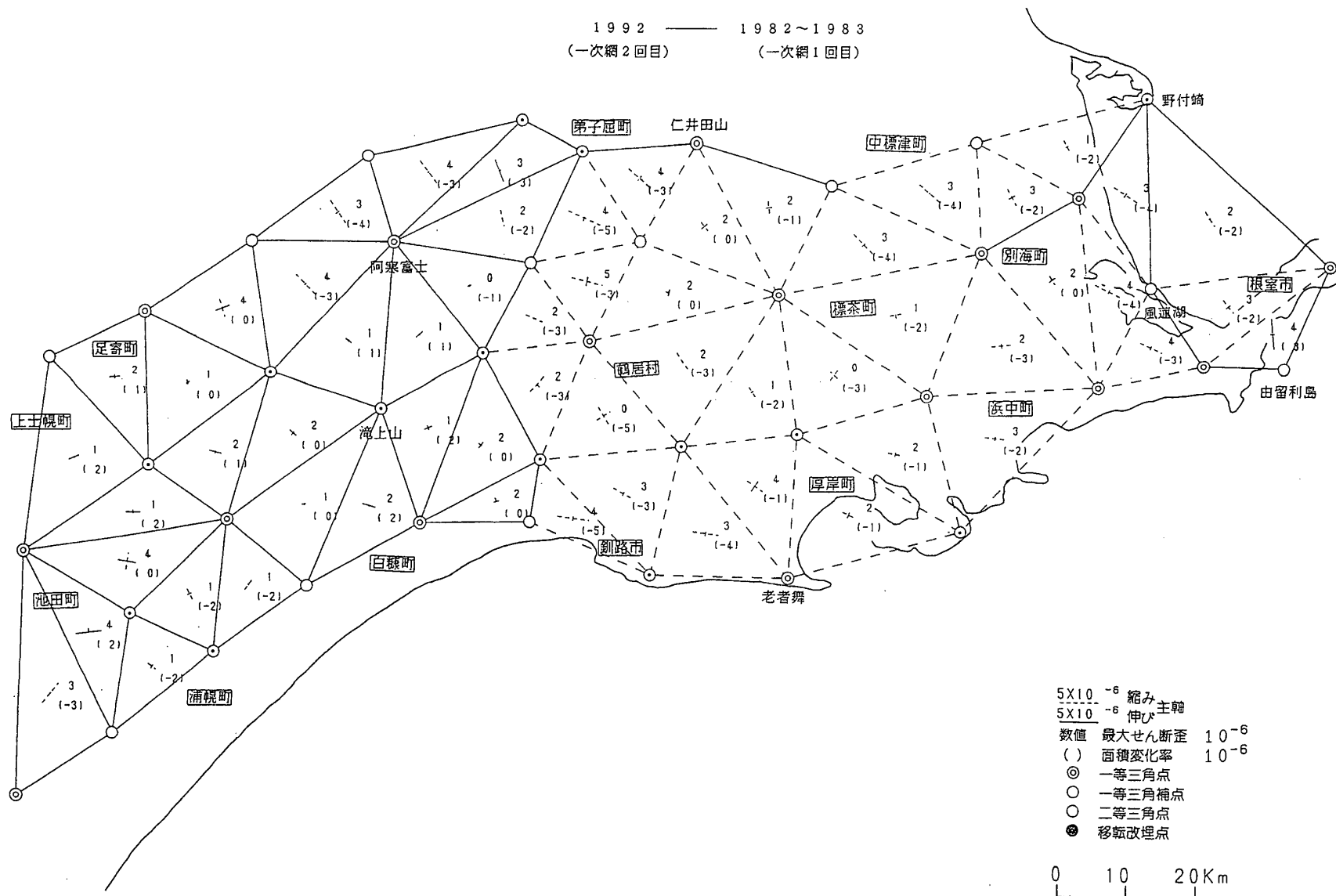
第5図 根釧地方の水平歪 (1992-1982~1983)

Fig.5 Horizontal strains in the Kosen region (1992-1982~1983).



第6図 根釧地方の水平歪 (1992-1909~1917)

Fig.6 Horizontal strains in the Kosen region (1992-1909~1917).



第7図 北海道東部地方の水平歪 (1992-1982~1983)

Fig.7 Horizontal strains in the eastern Hokkaido region (1992-1982~1983).